

「家型」建築の変遷と現在

宇野研究室

4105043 清水 忠昭

1. 研究背景

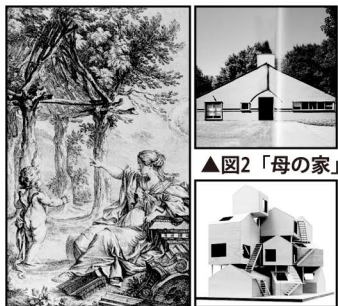
「家型^{註1)}」の形態をもつ建築(以下、「家型」建築)の起源は、ロージェの『原始の小屋』(図1)にも示されているように、木材を使う構法からもたらされ、傾斜した屋根は雨をしのぐという機能的な理由も兼ね備えていた。

モダニズムの建築は、そうした伝統的な屋根ではなく、フラットな屋上を求め、四角い箱こそを近代の表現とした。次に、モダニズムの反論として登場したポストモダニズムの建築は、記号として「家型」を再導入した(図2)。さらに、90年代のモダニズムの回帰により「家型」は一旦忘却されていた。つまり、「家型」は二度発見された建築のモチーフであった。

そして近年では、再び建築作品に「家型」を用いたものが頻繁に登場している(図3)。そこで、「家型」を単なる流行の形態としてとらえるのではなく、「家型」の定義をここで再度問い直すことは重要だと考えられる。

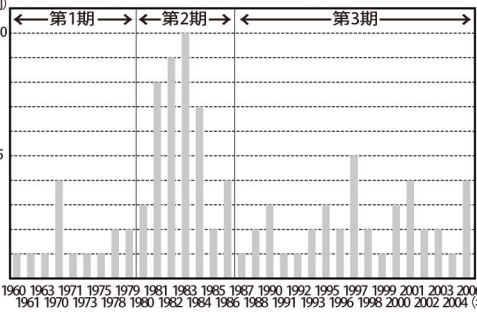
2. 研究目的

本研究では「家型」建築の変遷を追い、「家型」建築がどのように変化していったのか、また、現代における「家型」建築にはどのような特徴があるのかを明らかにする事を目的とする。

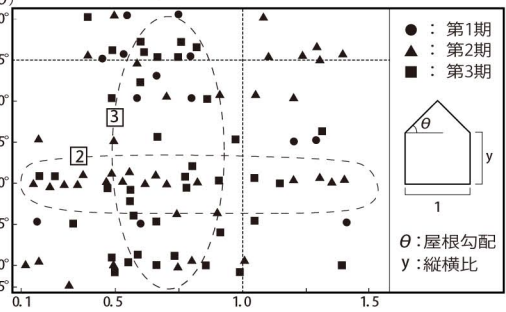


▲図1「原始の小屋」 ▲図3「東京アパートメント」

▼表1-2 「家型」建築の事例数変化



▼表2-1 「家型」建築のプロポーシヨン分布図



▼表1-1 資料リスト及び「家型」建築の用途

資料No.	完成年	作品名	設計者名	用途	資料No.	完成年	作品名	設計者名	用途
3	1963	母の家	R・ヴェンチュリ	住宅	62	1991	ワイルドウィスの家	T・G・スミス	住宅
4	1970	トルバベック・ハウス	R・ヴェンチュリ		64	1993	クネディン・ガリー	ベアット・コンソニ	
5	1970	バーン・ハウス	R・ヴェンチュリ		66	1995	サリノ近郊の住宅	E・グースナール	
6	1973	マッシュ・ハウス	R・ヴェンチュリ		67	1995	リヴァーサイド・スクール (住居棟)	ホルン・デーラー	
7	1973	メイン州の船に建つ家	G・スウィツァー		68	1995	ベルグシュの船屋	D・マルケス他	
8	1973	ロスチャイルド邸	A・ロヴィン		69	1996	コショフ邸	R・ボードゥアン	
9	1975	ベゴニャーの半家族住宅	A・ロヴィン		70	1996	バーン・デルツ近郊の住宅	フィング・ヨッファ	
10	1980	ブルー・ハウス	H&K・H		72	1997	ホルン・デーラー	H&K・H	
11	1980	ハイランド・バーにある住宅	S・タイガーマン		74	1997	ハートレイ	ホルン・デーラー	
12	1981	ファーム・ハウス	R・A・H・スタン		76	1998	静寂の家	F・ガム・デヤン	
13	1981	ノーマン邸	ヤノ・ヨシ		77	1998	ベルリンの住宅	P・ハレー他	
14	1981	アッター・湖岸の住宅	ルジ・ブラウ		78	1999	アーティストの住宅	A・ウェ・ウェイ	
15	1981	ブランジュ邸	S・ヴァン・デ・ノープ		79	2000	シュタインベルグ湖の木造住宅	フィング・ヨッファ	
16	1981	山の家	J・L・ネーグ		80	2000	フラワーズの住宅	M・ウェルヒ	
17	1982	ジャック・ニコラウス・ゴルフコミュニティ	S・ヴァン・デ・ノープ		81	2000	ウィーランド・ヘッド邸	R・クラビュット	
18	1982	ビー・ネ・フェルト邸	H・ビー・ネ・フェルト		82	2001	ホリ・ホーム	マルク・マルク	
19	1982	ジュディ・邸	デュー・リ・他		83	2001	ナイトル	ホルン・デーラー	
20	1982	省エネルギー住宅	A・D・ワイド		84	2001	鹿村の住宅	アルファ・シザ	
21	1983	チルマークの住宅	R・A・H・スタン		87	2002	新島屋の隣の住宅	V・ヒラー	
22	1983	ショーン・グロ邸	S・ヴァン・デ・ノープ		88	2003	アズール・海の住宅	セシリア・ピガ	
23	1983	ハーツ邸	J・ワレリオ		89	2003	アゼイタンの住宅	M・A・マテウス	
24	1983	デュラ・ワージニオン邸	S・ヴァン・デ・ノープ		91	2006	ソミラスカ邸	G・A・カナダ	
25	1983	静寂の家	S・ヴァン・デ・ノープ		93	2006	コンチネ	コンチネ	
26	1983	コスタ・ブラワの住宅	R・A・H・スタン		94	1981	セント・サン・ジョバンニの集合住宅	P・ホル・ケージ	
27	1984	ロング・アイランド・サウンドの住宅	R・A・H・スタン		95	1983	サンタフェの集合住宅	A・ディクス	
28	1984	ウエスト・チェスターの家	R・A・H・スタン		97	1984	ラナーク・ロードの集合住宅	J・ディクソン	
29	1986	ワックスマン邸	ジュレ・ワイ・エ		98	1984	ワイルド・ヘルム・ケンパ・ハウス	カメラ・ベリツ	
30	1986	ミラン邸	タト・アーキテツ		15	1980	ホテル・ホー・ハウス	PHS	
31	1988	デュスター・ホフ邸	カリス・ヒメネス		7	1971	ビル・チャック・ガラス工芸センター	T・L・スワース	
32	1988	フィッツ・バトリック邸	カリス・ヒメネス		22	1981	ルツェルン群のコミュニティ・カレッジ	B・ハウル他	
33	1990	ヴァン・グロ・ホーム	カリス・ヒメネス		42	1983	環境教育センター	マイケル・グレイブス	
34	1990	カサ・マッジ	マジョ・カンビ		45	1984	デンヴァー・水道局・クレストサイド・コンプレックス	M・C・バートナース	
35	1990	カサ・マッジ	マジョ・カンビ		56	1987	ペンシ・コミュニティセンター	ペンシ・コミュニティ	

表2-2 「家型」建築のプロポーシヨンの変遷▼

資料No.	完成年	作品名	設計者名	用途	資料No.	完成年	作品名	設計者名	用途
41	1983	ソリッド・スタート・ロジック社本社	ダグ・クレランド	オフィス	47	1984	ジュッット・カルのオフィスビル	G・ベーム	オフィス
42	1984	ジュッット・カルのオフィスビル	G・ベーム	オフィス	51	1985	オスチン通りのオフィスビル	C・シトナー	オフィス
43	1985	オスチン通りのオフィスビル	C・シトナー	オフィス	86	2002	ライト・リッゲン・ジュート・メタル	A・ヴァン・デ・ノープ	オフィス
44	1986	ヒメネス・スタジオ	カリス・ヒメネス	アート・スタジオ	52	1986	ヒメネス・スタジオ	カリス・ヒメネス	アート・スタジオ
45	1986	アトリエ・ズント	ピーター・ズント	アート・スタジオ	53	1986	アトリエ・ズント	ピーター・ズント	アート・スタジオ
46	1986	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ	90	2004	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ
47	1986	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ	37	1983	パルメ・カッソン	P・カッソン	アート・スタジオ
48	1986	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ	94	2006	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ
49	1986	黒いアパカル	S・ヴァン・デ・ノープ	アート・スタジオ	26	1982	レガリ・体育館	A・サル・フェッティ	体育館
50	1986	レガリ・体育館	A・サル・フェッティ	体育館	1	1960	ポリデンの教会	P・セル・リッピン	教会
51	1986	ポリデンの教会	P・セル・リッピン	教会	23	1981	イマニエール長老教会	H・コックス	教会
52	1986	イマニエール長老教会	H・コックス	教会	25	1982	トマス・ア・ナイクス・カトリック教会	C・タイ・ブレイ	教会
53	1986	トマス・ア・ナイクス・カトリック教会	C・タイ・ブレイ	教会	33	1982	ロータ・ヴァーラの教会	S・アール・デロ	教会
54	1986	ロータ・ヴァーラの教会	S・アール・デロ	教会	61	1990	クライバート・チャペル	A・フット・ア・デロ	教会
55	1986	クライバート・チャペル	A・フット・ア・デロ	教会	63	1992	パルメ・カッソン	P・カッソン	教会
56	1986	パルメ・カッソン	P・カッソン	教会	65	1993	オベレ・アルタの教会	クリス・チャン・レフ	教会
57	1986	オベレ・アルタの教会	クリス・チャン・レフ	教会	28	1982	セント・メイン・ラッド修道院	H・モルガン	修道院
58	1986	セント・メイン・ラッド修道院	H・モルガン	修道院	92	2006	新セント・会修道院	イェン・セン	修道院
59	1986	新セント・会修道院	イェン・セン	修道院	73	1997	ハリ・カッソン	カリス・ヒメネス	修道院
60	1986	ハリ・カッソン	カリス・ヒメネス	修道院	85	2001	カステル・モッローネの修道院	V・セル・リッピン	修道院
61	1986	カステル・モッローネの修道院	V・セル・リッピン	修道院	90	1985	チャイ・カス・デッカー・学校	M・ア・クサス他	小学校
62	1986	チャイ・カス・デッカー・学校	M・ア・クサス他	小学校	71	1997	アル・クア・デ・カッソン	カリス・ヒメネス	小学校
63	1986	アル・クア・デ・カッソン	カリス・ヒメネス	小学校	75	1997	アル・クア・デ・カッソン	カリス・ヒメネス	小学校
64	1986	アル・クア・デ・カッソン	カリス・ヒメネス	小学校	11	1978	トロ・ロ・ロ・大学・大学センター	H・ラーセン	大学
65	1986	トロ・ロ・ロ・大学・大学センター	H・ラーセン	大学	21	1981	ライ・カス・デ・カッソン	J・スター・リッピン	大学
66	1986	ライ・カス・デ・カッソン	J・スター・リッピン	大学	10	1978	ラ・カッソン・カッソン	S・フィッシャー	幼稚園
67	1986	ラ・カッソン・カッソン	S・フィッシャー	幼稚園	49	1984	ヒュー・プロ・リッピン	P・モッローネ	中学校

▼「家型」建築の用途の割合

用途	割合
住居系	65%
公共系	16%
商業系	12%
その他	7%

5. 研究内容及び考察

5-1. 「家型」建築の用途の割合と事例数変化

事例を用途に着目して並べ替えた(表1-1)。住居系(住宅・集合住宅・ホテル)が62例で全体の65%を占めた。そして、「家型」建築の年代を追った事例数変化(表1-2)から、36年間を事例数の増減により、3期に分けた。急激に事例数が増加した1980～1986年を第2期とし、その前後をそれぞれ第1期・第3期とした。

■考察 様々な用途があったが、「家型」の元々の用途である住居系が最も多い割合を示した。第2期において、ある一定の時期に事例数が急激に増加し減少していることから、何らかのムーブメントがあったと推測できる。それは、R・ヴェンチュリ『母の家』に代表されるポストモダニズムの影響があったのではないかと考えられる。

5-2. 「家型」建築のプロポーシヨン

(表2-1)から、第1期では事例が分散し特徴は無く、第2期では縦軸30°付近に集中し、第3期では、横軸0.5～1.0付近に集中した。以上から、プロポーシヨンの変遷は(表2-2)のようにまとめられる。

■考察 第1期では「家型」のプロポーシヨンに対するイメージが共有されていないことがわかった。その後の第2期・第3期では、「家型」のプロポーシヨンに特徴が表れている(表2-2)。それは、ポストモダニズムの影響だと考えられる記号としての「家型」建築の流行により、第2期以降「家型」の記号性が確立されたと推測できる。

5-3. 構成要素の組み合わせからみる「家型」建築の分類

Ⅱ型・Ⅰ型・0型は、異素材(表面に異なる種類の素材が使われているもの)の要素が消えた。Ⅴ型・Ⅳ型・Ⅲ型は第2期に、Ⅱ型・Ⅰ型・0型は第3期に多くみられた。

■考察 Ⅴ型から0型になるにつれ、表面が単一素材となり、装飾・軒・入口・窓の要素が排除され、より抽象度の高い「家型」建築となる。Ⅱ型・Ⅰ型・0型では、第3期の事例が過半数を占めることから、現代における「家型」建築は、装飾が省かれ抽象化された「家型」に近づいている事がうかがえる。

6. 結論

「家型」建築は、1980～1986年の一定の期間に急激に増加し、プロポーシヨンに特徴が現れ、それ以降現代に向うにつれて装飾が排除され、抽象化した「家型」に近づいた事が明らかになった。

これは、ポストモダニズムの特徴である装飾的な「家型」と、モダニズムの「装飾を削ぎ落とす」という二つの要素が組み合わさり、現代の抽象化された「家型」が形成されていると考えられる。

本研究では、建築雑誌の写真から読み取れる情報にのみ限定し、分析を行ったが、今後は、詳細な図面や資料なども入手し構法や内部空間についても研究し、考察を行う事が課題である。

脚注:1)ここで「家型」とは、(文献2)より定義されている「矩形の上部に勾配屋根を伴ったもの」とする。2)家型が正面から認識でき、コンベアやスタディ段階のもの以外の、実現しているものを対象とする。3)プロポーシヨンは、抽出した建築写真の輪郭を取り出したものとし、屋根勾配と縦横比を取り出す。縦横比とは、横を1とした時の、横に対する高さの比のことを指す。4)ここで「構成要素」とは、装飾(煙突・彩色・太い窓縁など)・異素材(表面に異なる種類の素材が使われているもの)・入口・窓・軒とする。参考文献:1)株式会社エーアンドユー『a+u』1971-2007、2)岩間竜夫、坂本一成『住宅外形と<家><建築>のイメージ』日本建築学会論文論文集第402号、p97-106、1989年8月、3)中井邦夫、妹尾慎吾、坂本一成『現代建築作品における架構と空間構成』日本建築学会論文論文集第551号、p149-155、2002年1月、4)李知映、仙田満、矢田努『現代建築におけるアトリウム類型と評価に関する研究』日本建築学会論文論文集第572号、p17-24、2003年10月、5)藤本杜介建築設計事務所HP:www.sou-fujimoto.comより引用

▼表3 構成要素の組み合わせからみる「家型」建築の分類

資料 No.	装飾	異素材	窓	入口	軒	型	モデル (数字は全94作品中の該当資料数)	数	写真	
2	●	●	●	●	●	V		全ての要素を含む	1期	
8	●	●	●	●	●				2	
17	●	●	●	●	●				13	
18	●	●	●	●	●				2	
20	●	●	●	●	●				17	
28	●	●	●	●	●				13	
29	●	●	●	●	●				2	
34	●	●	●	●	●				17	
35	●	●	●	●	●				13	
40	●	●	●	●	●				2	
41	●	●	●	●	●				17	
44	●	●	●	●	●				13	
46	●	●	●	●	●				2	
54	●	●	●	●	●				17	
55	●	●	●	●	●				13	
68	●	●	●	●	●				2	
90	●	●	●	●	●				17	
6	●	●	●	●	●	IV-1		四つの要素を含む	1期	
10	●	●	●	●	●				2	
49	●	●	●	●	●				8	
52	●	●	●	●	●				10	
56	●	●	●	●	●				10	
63	●	●	●	●	●				8	
81	●	●	●	●	●				5	
92	●	●	●	●	●				22	
19	●	●	●	●	●	IV-2		三つの要素を含む	1期	
26	●	●	●	●	●				3	
30	●	●	●	●	●				5	
38	●	●	●	●	●				4	
39	●	●	●	●	●				4	
57	●	●	●	●	●				16	
58	●	●	●	●	●				5	
91	●	●	●	●	●				7	
25	●	●	●	●	●	IV-3		三つの要素を含む	1期	
42	●	●	●	●	●				3	
43	●	●	●	●	●				5	
62	●	●	●	●	●				4	
87	●	●	●	●	●				16	
73	●	●	●	●	●				5	
13	●	●	●	●	●				4	
22	●	●	●	●	●				18	
31	●	●	●	●	●	IV-4		一つの要素を含む	1期	
12	●	●	●	●	●				1	
23	●	●	●	●	●				1	
24	●	●	●	●	●				1	
59	●	●	●	●	●				1	
3	●	●	●	●	●				1	
5	●	●	●	●	●				1	
21	●	●	●	●	●				1	
27	●	●	●	●	●	III-1		一つの要素を含む	1期	
69	●	●	●	●	●				1	
60	●	●	●	●	●				1	
4	●	●	●	●	●				1	
64	●	●	●	●	●				1	
16	●	●	●	●	●				1	
7	●	●	●	●	●				1	
14	●	●	●	●	●				1	
32	●	●	●	●	●	III-2		一つの要素を含む	1期	
45	●	●	●	●	●				1	
79	●	●	●	●	●				1	
9	●	●	●	●	●				1	
61	●	●	●	●	●				1	
67	●	●	●	●	●				1	
80	●	●	●	●	●				1	
85	●	●	●	●	●				1	
88	●	●	●	●	●	III-3		一つの要素を含む	1期	
89	●	●	●	●	●				1	
15	●	●	●	●	●				1	
50	●	●	●	●	●				1	
51	●	●	●	●	●				1	
82	●	●	●	●	●				1	
33	●	●	●	●	●				1	
36	●	●	●	●	●				1	
70	●	●	●	●	●	III-4		一つの要素を含む	1期	
78	●	●	●	●	●				1	
1	●	●	●	●	●				1	
37	●	●	●	●	●				1	
65	●	●	●	●	●				1	
72	●	●	●	●	●				1	
84	●	●	●	●	●				1	
88	●	●	●	●	●				1	
94	●	●	●	●	●	III-5		一つの要素を含む	1期	
74	●	●	●	●	●				1	
75	●	●	●	●	●				1	
83	●	●	●	●	●				1	
53	●	●	●	●	●				1	
66	●	●	●	●	●				1	
71	●	●	●	●	●				1	
86	●	●	●	●	●				1	
93	●	●	●	●	●	0		要素無し	4期	

11

47

48

76

77

(11・47・48は
ガラス製で、
76・77は、妻
面が無いので
例外とする。)